平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月4日

上場会社名　株式会社 淀川製鋼所　　上場取引所　東 大
コード番号　5451　URL　http://www.yodoko.co.jp
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 國保　善次
問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員　経理部長　(氏名) 林　真生　TEL 06-6245-1113

四半期報告書提出予定日　平成23年11月11日　配当支払開始予定日　平成23年12月1日
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	77,381	7.6	4,607	26.0	5,130	21.8	2,120	53.4
23年3月期第2四半期	71,946	14.9	3,657	—	4,213	—	1,382	—

(注)包括利益　24年3月期第2四半期　1,378百万円　(—%)　23年3月期第2四半期　△1,787百万円　(—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	13.24	13.21
23年3月期第2四半期	8.36	8.35

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	175,500	139,046	72.2
23年3月期	175,168	138,956	72.4

(参考) 自己資本　24年3月期第2四半期　126,629百万円　23年3月期　126,880百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
24年3月期	—	5.00			
24年3月期(予想)			—	5.00	10.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　有
平成24年3月期の期末配当金につきまして、今般見通しを得ましたのでお知らせいたします。

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	157,000	8.4	6,600	56.3	7,600	60.0	3,400	96.8	21.29

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有
詳細につきましては、3ページの1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報をご参照ください。

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	184,186,153 株	23年3月期	184,186,153 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	24,974,233 株	23年3月期	23,913,491 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	160,117,799 株	23年3月期2Q	165,346,373 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きは終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については3ページの1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… P. 02
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… P. 02
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… P. 03
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… P. 03
２．四半期連結財務諸表 …… P. 04
（１）四半期連結貸借対照表 …… P. 04
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… P. 06
四半期連結損益計算書
第２四半期連結累計期間 …… P. 06
四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間 …… P. 07
（３）継続企業の前提に関する注記 …… P. 08
（４）セグメント情報等 …… P. 08
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… P. 08

１．当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第２四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災による後退から製造業の生産を中心に急速な回復を見せましたが、期の半ば以降は、円高と世界経済への不安材料が色濃くなる中で停滞を余儀なくされました。世界経済は、欧米のソブリンリスクの高まりから投資家のリスク回避の動きが加速し、世界的な株価低迷と円高に歯止めがかからない、極めて不透明な状況でありました。

国内鉄鋼業におきましては、期の前半で一部に震災復旧需要が見られ、６月以降は粗鋼生産量も徐々に回復しましたが、国内需要の弱含みから在庫の積み上がりは解消されず、市況は軟調に推移しました。海外鉄鋼市場は、８月の世界粗鋼生産量が24ヶ月連続で前年同期比超になるなど拡大基調が続いておりますが、中国での生産過剰が解消されないなど、市況としては全般的に軟調に推移しました。また、資源価格も上昇の勢いは衰えたものの依然高止まりしたことなどから、世界的に鉄鋼業の収益圧迫の構図が続いております。

このような環境下にあって当社グループは、鋼板関連事業で東北地方を中心とする住宅建材向け鋼板商品やエクステリア商品などの復旧需要に応えるとともに、ロール事業では震災被害を受けた顧客の設備復旧へのサポートなどに注力いたしました。また、主原材料である熱延鋼板の値上りに伴う当社鋼板関連商品の価格改定について、顧客のご理解を得られるよう引き続き努めてまいりました。

台湾の子会社センユースチールカンパニーリミテッド（以下、センユースチール社という。）については、台湾国内の販売量が伸びたことから前年同期比で増収となりました。販売価格は期の半ばに改定が進みましたが、期初の改定の遅れと期の終盤に台湾国内・輸出ともに市況が軟化したことから、営業利益は前年同期比で減益となりました。

以上の結果、当社グループの当第２四半期連結累計期間の業績は、売上高773億81百万円（前年同期比54億34百万円増）、営業利益46億７百万円（同９億50百万円増）、経常利益51億30百万円（同９億17百万円増）、四半期純利益21億20百万円（同７億37百万円増）となりました。

セグメントの業績は以下の通りです。

①鋼板関連事業

売上高は714億74百万円、営業利益は45億51百万円であります。

鋼板業務については、国内では建材向けめっき鋼板商品が伸びたことと東日本でカラー鋼板の復旧需要があったことから、販売量は前年同期比で増加となりました。国内販売価格の改定は、震災の影響で顧客との交渉が遅れたこととその後市況が軟調に推移したことから小幅な進捗となりました。なお、センユースチール社の売上高も伸びたことから、海外を含む鋼板業務としても前年同期比で増収となっております。

建材業務建材商品は、期初に仮設住宅向けの復旧需要があったことと期の半ば以降は非住宅物件の工期遅れが解消に向かったことなどからルーフの販売量が伸長し、前年同期比で増収となりました。建材業務エクステリア商品では、自転車置場の販売量が減少したものの、東北地方を中心に物置の復旧需要があったこと、昨年７月発売のガレージ新商品が引き続き好調であったことなどから、前年同期比で増収となりました。

②ロール事業

売上高は25億４百万円、営業利益は２億95百万円であります。

輸出は前年同期と比べやや低調でしたが、国内では期の半ばから鉄鋼向け非鉄向けともに販売量が伸び、増収となりました。

③グレーチング事業

売上高は13億87百万円、営業損失は87百万円であります。

厳しい市場環境の中、販売数量は前年同期と比べ微減に留まりましたが、熾烈な販売競争による価格下落の影響で減収となりました。

④不動産事業

売上高は４億27百万円、営業利益は３億36百万円であります。

ビル賃料及び地代収入が減少したことから減収となりました。

⑤その他事業

売上高は15億86百万円、営業利益は50百万円であります。

前年同期と比べゴルフ場、機械プラントは減収となりましたが、運輸・倉庫業の販売が伸びたことから増収となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

（資産）

当第２四半期連結会計期間末における流動資産は前連結会計年度末より42億71百万円増加し978億71百万円となりました。売掛金の増加（33億38百万円）、商品及び製品の増加（29億25百万円）、現金及び預金の増加（23億83百万円）、有価証券の減少（33億99百万円）等の要因によるものです。

固定資産は前連結会計年度末より39億39百万円減少し776億29百万円となりました。投資有価証券の減少（24億59百万円）、機械装置及び運搬具の減少（８億38百万円）、建物及び構築物の減少（４億45百万円）等の要因によるものです。

この結果、連結総資産は1,755億０百万円となり、前連結会計年度末と比べ３億31百万円増加しました。

（負債）

当第２四半期連結会計期間末における流動負債は前連結会計年度末より10億97百万円増加し237億76百万円となりました。主として未払法人税等の増加（９億77百万円）の要因によるものです。

固定負債は前連結会計年度末より８億55百万円減少し、126億76百万円となりました。主として長期繰延税金負債の減少（６億33百万円）の要因によるものです。

この結果、連結負債合計は364億53百万円となり、前連結会計年度末より２億41百万円増加しました。

（純資産）

当第２四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末より90百万円増加し1,390億46百万円となりました。利益剰余金の増加（13億18百万円）、その他有価証券評価差額金の減少（13億３百万円）等の要因によるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

足元の世界経済は、欧米のソブリンリスクが早期に解消される見込みは薄く、新興国経済への影響の懸念も現れ始め、世界的な株価低迷と円高は当面続くものと予想されます。

これらの要因から、国内企業にとって厳しい経営環境が続くと考えられますが、民間の機械設備投資や建設投資は増加する傾向にあり、国内経済は下期の後半からは緩やかに上昇してゆくものと予想されます。

鉄鋼業におきましても、８月の普通鋼鋼材受注量が６ヶ月ぶりに前年同期を上回るなど需要回復の兆しが現れており、復興需要が期待される来期に向け、需要は徐々に上向くものと予想されます。一方で、中国での鉄鋼生産過剰の影響から安価な輸入材が国内へ流入する懸念があり、また、鉄鉱石と原料炭の価格は下落基調にありますが、当社の主原材料である国内熱延鋼板の価格はなお高止まりする可能性もあり、採算面では予断を許さない状況が続くものと想定しております。

このような中、当社グループとしては地域に密着したきめ細やかな営業活動をより深耕するとともに、引き続き差別化商品の開発と拡販に取り組んでまいります。台湾の子会社センユースチール社については、中国市況が軟調に推移しているのに加え、米国市況も急速に軟化していることから、期末にかけて厳しい状況におかれるものと想定しております。

以上の状況を踏まえ、平成23年８月５日に公表しました通期の業績予想を修正しております。

２．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成23年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,866	17,250
受取手形及び売掛金	32,064	35,968
有価証券	15,272	11,872
商品及び製品	11,530	14,454
仕掛品	3,848	4,294
原材料及び貯蔵品	12,404	10,757
その他	3,847	3,509
貸倒引当金	△234	△236
流動資産合計	93,599	97,871
固定資産		
有形固定資産		
土地	18,816	18,820
その他	28,750	27,324
有形固定資産合計	47,567	46,144
無形固定資産	404	381
投資その他の資産		
投資有価証券	30,033	27,574
その他	3,614	3,564
貸倒引当金	△51	△36
投資その他の資産合計	33,597	31,102
固定資産合計	81,569	77,629
資産合計	175,168	175,500
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,925	15,810
未払法人税等	636	1,781
賞与引当金	826	840
その他	5,290	5,343
流動負債合計	22,679	23,776
固定負債		
退職給付引当金	7,418	7,328
役員退職慰労引当金	57	58
負ののれん	73	54
その他	5,982	5,235
固定負債合計	13,532	12,676
負債合計	36,211	36,453

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成23年９月30日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,220	23,220
資本剰余金	23,738	23,738
利益剰余金	88,288	89,607
自己株式	△9,274	△9,628
株主資本合計	125,973	126,938
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,995	2,691
土地再評価差額金	1,386	1,396
為替換算調整勘定	△4,474	△4,397
その他の包括利益累計額合計	906	△309
新株予約権	109	133
少数株主持分	11,966	12,283
純資産合計	138,956	139,046
負債純資産合計	175,168	175,500

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）
売上高	71,946	77,381
売上原価	61,474	65,838
売上総利益	10,471	11,542
販売費及び一般管理費	6,814	6,934
営業利益	3,657	4,607
営業外収益		
受取利息	108	122
受取配当金	268	324
負ののれん償却額	19	19
持分法による投資利益	7	67
その他	315	294
営業外収益合計	719	827
営業外費用		
支払利息	25	25
為替差損	－	122
減価償却費	34	31
その他	103	125
営業外費用合計	163	305
経常利益	4,213	5,130
特別利益		
固定資産売却益	3	0
貸倒引当金戻入額	0	－
その他	0	－
特別利益合計	4	0
特別損失		
投資有価証券評価損	660	662
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	214	－
その他	84	52
特別損失合計	959	715
税金等調整前四半期純利益	3,258	4,415
法人税、住民税及び事業税	705	1,731
法人税等調整額	768	145
法人税等合計	1,474	1,876
少数株主損益調整前四半期純利益	1,783	2,538
少数株主利益	401	418
四半期純利益	1,382	2,120

（四半期連結包括利益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	1,783	2,538
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,774	△1,311
為替換算調整勘定	△782	148
土地再評価差額金	－	9
持分法適用会社に対する持分相当額	△14	△6
その他の包括利益合計	△3,571	△1,159
四半期包括利益	△1,787	1,378
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,769	904
少数株主に係る四半期包括利益	△18	474

（３）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（４）セグメント情報等

Ⅰ 前第２四半期連結累計期間（自平成22年４月１日 至平成22年９月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	鋼板関連事業	ロール事業	グレーチング事業	不動産事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	66,627	1,907	1,445	542	70,523	1,423	71,946	－	71,946
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	－	－	246	247	1,242	1,489	△1,489	－
計	66,627	1,907	1,445	788	70,770	2,666	73,436	△1,489	71,946
セグメント利益又は損失（△）	3,600	127	4	435	4,168	△2	4,165	△508	3,657

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、運輸・倉庫業、ゴルフ場、機械プラント等の事業を含んでおります。

２．セグメント利益又は損失の調整額には、配賦不能費用△530百万円、セグメント間取引消去21百万円を含んでおります。

３．セグメント利益また損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第２四半期連結累計期間（自平成23年４月１日 至平成23年９月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	鋼板関連事業	ロール事業	グレーチング事業	不動産事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	71,474	2,504	1,387	427	75,795	1,586	77,381	－	77,381
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	239	239	1,393	1,633	△1,633	－
計	71,474	2,504	1,387	667	76,034	2,979	79,014	△1,633	77,381
セグメント利益又は損失（△）	4,551	295	△87	336	5,096	50	5,146	△538	4,607

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、運輸・倉庫業、ゴルフ場、機械プラント等の事業を含んでおります。

２．セグメント利益又は損失の調整額には、配賦不能費用△539百万円、セグメント間取引消去０百万円を含んでおります。

３．セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。